

## 北村 孝司 Takashi Kitamura

イメージサイエンス総論 (必)、2セメ、水4、受講者数72名

イメージサイエンス総論 (選)、2セメ、水5、受講者数65名

画像記録工学 (必)、2セメ、木2、受講者数75名

### 1. 授業の組み立て方と取り組み方

「イメージサイエンス総論」平成20年度から開講した科目である。本授業は画像工学分野において画像工学／科学を学ぶ上での基礎知識を学習し、画像技術が社会に及ぼす影響を幅広い視野で考える力を身につけることを目的にした。具体的には、様々な画像、画像の基礎(画像濃度、階調、コントラスト、色再現)、画像記録(印刷技術、写真技術、電子写真技術)、カラーハードコピー、メモリ技術、画像表示(TVと液晶)、電子ペーパー、画像処理(走査、量子化)、画像評価について論述した。

「画像記録工学」は平成22年度から開講した科目である。本授業は画像記録工学分野において画像記録プロセスと材料設計について専門知識を学習し、幅広い視野で画像形成に対する考える力を身につけることを目的にした。具体的には、画像記録の歴史、電子写真プロセスと材料、インクジェット記録プロセスと材料、熱記録プロセスと材料について論述した。次に、講義で工夫した点を述べる。

a) テキスト「イメージサイエンス総論」「画像記録工学」を作成し配布した。

b) 講義の分量を減少し、十分理解できるように努めた。・・・従来の講義内容では、ただ現象を羅列するのみで理解が進まないことがあり、講義の内容を重要なものだけに短縮した。

### 2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

授業評価では、テキストをあらかじめ配布していることが好評のようである。しかし、専門教育として理解度および満足度が不足している。今後、いかに学問的興味を持たせるかが課題である。

### 3. 今後の授業改善について

「イメージサイエンス総論」について、先端技術に関してのみ興味を持つだけでなく、基礎的な現象についてももしっかり勉強する心構えを学生に持たせる必要がある。そのための努力を行うことにする。また、4コマと5コマが同じ内容の講義が連続して行われているため期末に行う試験については、工夫が必要である。さらに、広い範囲を扱う授業で、話題の相互の関連についての理解が十分ではないように思われるので、この点に注意したい。

「画像記録工学」基礎的な現象についてももしっかり勉強する心構えを学生に持たせる必要がある。そのための努力を行うことにする。さらに、広い範囲を扱う授業で、話題の相互の関連についての理解が十分ではないように思われるので、この点に注意したい。

# 久下 謙一 Ken' ichi Kuge

光物性基礎 (必)、4セメ、水1, 受講登録数9名

## 1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

光物性基礎の科目は、画像を扱う上で必須の光と物質との関係を理解する、化学と物理の両方にまたがる科目である。改組により旧学科の学生のみが対象となり、受講登録数が昨年よりさらに減少した。そのため今年も新画像科学科の学生に、余剰単位にはなるが受講を呼びかけたところ、登録者4名、聴講だけの学生も数名が講義を受けた。

内容が多岐にわたるが、高校の物理と化学の復習・専門基礎科目の復習をふまえながら行った。光の性質をきちんと理解するためには、基礎的事項とその全体像をしっかりと理解しておくことが重要であることを自覚させるように努めた。

ほぼ毎回その日の内容の復習となる簡単な宿題を課した。宿題は翌週提出してもらい、採点したのち翌々週の授業の冒頭に返却し、内容、正答などの解説、説明を授業中の区切りで行った。最終回の宿題として、授業内容をA4用紙1枚にまとめるという課題を出し、これは試験時に答案と一緒に提出してもらい、試験中は参考に閲覧できるようにした。まとめることで試験勉強になり、手書きに限定しているので、それを清書する段階で内容が頭に入るという効果がある。カンニングペーパーの予防にもなっている。よくまとまっているかを基準にこれも採点しているが、これまでと同じく成績との相関がうかがえる。

## 2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

アンケートの返却数は少なかったが、評価値はほとんど平均を上回っている。新学科の学生は特に熱心に受講していた。全回答で宿題が理解を助けるのに役立ったと答えており、宿題の効果があつたようである。声の聞こえやすさ、板書の見やすさなども全員が5と回答しており、受講者の動向を注意しながら授業を進めた効果があつたと思われる。

## 3. 今後の授業改善について

この授業は基本的に今年度で終了であり、単位を落としていた学生もほぼ取得したので、今後開講されるかどうかは未定である。授業の内容は、今後の新学科の授業の中で活かしてゆきたい。

# 小関 健一 Ken`ichi Koseki

プリンティング工学 (選必)、6セメ、火4、受講登録数 52名

## 1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

「プリンティング工学」では、引き続き液晶プロジェクターを使用した授業を行っている。前年度までのアンケートを参考に、さらにプリンティング技術のより具体的な例を、写真や動画などを多用してより実的な情報を伝えられるようにした。ただパワーポイントでの説明では図表などをノートに取ることが難しいので、パワーポイントの資料を配付し、理解してもらえるように工夫した。しかし、パワーポイントの資料をそのまま配付すると、全くノートを取らなくなる傾向があるため、重要な項目に関しては配付資料を不完全にして授業中に緊張感を持たせるような工夫を継続して進めた。

講義内容の区切りごとに中間テストや小テストなどを行うとともに、次週にはその解説および模範解答を行って学生の理解度をチェックすることも引き続き行った。

「プリンティング工学」では、従来の印刷技術の基本をしっかりと理解してもらおうと共に、コンピュータやレーザーを利用した新しいCTPやインクジェットプリンティングなどのデジタル情報による印刷技術について講義し、その基本的な考え方を応用したナノプリントやナノインプリントなどの、今後微細加工技術の一部に取って代わる可能性のある新しい技術の考え方を理解して貰うことを目的とした授業である。

## 2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

一昨年より学生数にあった教室に変更したことで、以前クレームのあった教室の環境などに関する評価は、空調などの調節を行い、クリアできたと考えられる。液晶プロジェクターの使用や、サンプルの提示など、理解に役だつようにパワーポイントの資料を配付し、中間テストなどを行った後に、その解説および模範解答を行って学生の理解度をチェックして進めたが、今後も更なる工夫が必要と思われる。講義資料に空欄を設け、講義を聞きながら穴埋めさせたが、そのことが学生に対して講義のポイントを明確にするのに役立ったようだ。次年度も継続したい。

## 3. 今後の授業改善について

昨年より大きめのコピー資料を準備したが、まだパワーポイントの資料が見つらいと感じる学生もいると考えられるので、今後とも改善に心がけたい。講義内容は毎年更新しているが、まだ一部配付資料に反映されていないものがあつたので、次年度には注意したい。

講義の後にかなり積極的に質問してくる学生が数名いたが、ほとんどの学生は、いまだに受け身的な授業と感じているようなので、質問が出るような工夫など授業に積極的に参加させる努力を引き続き行いたい。また自分で学ぼうとするようにするために、複数回のレポートなどを求めることを引き続き検討したい。

## 小林 裕幸 Hiroyuki Kobayashi

人間と画像 (必)、4セメ、水2、受講登録数 55 名

### 1. 授業の組み立て方と取り組み方

必修であるので、全員が少しでも興味をもってくれるよう取り組んでいる。難しい話も身近な例を出すなどの工夫をしている。今、何を話しているのか、何が問題なのかを常にわからせる。いつも高校までの知識から出発し、難しい話へと展開していく。知識にも飛躍がないよう心がけている。

「板書」は非常にだいじだと思っている。学生が理解しやすい授業速度は板書しながら進めるペースが一番と信じている。

黒板にうまく描けないグラフ、また数式などは資料として配布するが、意識的に不完全にしてある。授業を聴きながら、不完全な分目をうめさせ、授業に参加を促すようにしている。

授業の最後に毎回豆テストを行い、授業への集中を促すとともに、理解度の確認を行っている。これは遅刻を減少させる効果もある。

### 2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

ほとんどすべての評価項目で学科平均値を上回ったが、板書、OHP、スライド等の見やすさの項目は 4.0 と 4.2 を下回った。板書の見にくさは自覚しているが残念だ。声が良く聞こえたかの項目が 4.8 と平均 (4.2) を大きく上回り、今年も最高点の項目だった。教材は役立ったかの項目も 4.5 (平均 4.1) と大きく、配布資料が板書の見にくさをカバーし理解に役立ったことを示しているのはうれしい。進度の適切さ 4.5 (平均 4.0)、例題、例え話等 4.5 (平均 4.1)、授業に満足したか 4.4 (平均 3.7) など平均を大きく上回った。

・学生からのコメント：

良かった点：時間をかけて様々な観点から教えてくれた；画像の観点から色彩を学べた；とても分かりやすかった；例え話や具体的な話はきいていておもしろかったし、わかりやすかった；例え話をまじえるなどしてわかりやすかった

改善すべき点：板書の字が読みにくかった；たまに板書で読みにくいところが・・・；板書がすこしみにくい；板書をよりきれいをお願いする

### 3. 今後の授業改善について

努力をしているが今回も板書改善について多くのコメントが寄せられた。あきらめないで改善に努めたい。

# 柴 史之 Fumiyuki Shiba

物質センシング (必選)、6セメ、水2、受講登録数 54 名

## 1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

この授業は、画像システムに用いられる、様々な物質および材料の各種構造情報を取得する手段（機器分析法）とその原理の理解を目的としたものである。ただし、多岐にわたる分析法そのものを、単に覚えることではなく、あくまでもその根底にある、物質と測定プローブ（電磁波、電子線など）との相互作用と、それが分析に利用できる原理の理解を中心としている。一方、各分析法の原理や測定対象は様々であり、アラカルト的要素が強くなるが、出来る限り関連する分析法を続けて取り扱う、あるいは、以前に紹介した分析法との共通項を意識させるなど、展開が散漫にならないように構成している。また取り上げる分析法は、利用頻度の高いものを中心としているが、比較的特殊なものでも、測定原理に他と共通点があるものも、意図的に取り上げている。

具体的な授業の方法は、主に基本原理の部分を板書で行い、装置の外観の写真や測定事例の紹介に関しては、LCD プロジェクタによる投影を併用している。また、測定原理を示す図など、内容的に重要かつ正確にノートに描きにくいものに関しては、印刷した資料を配布している。また関連する Web ページの URL を Moodle 上にリンクし、更に広い情報が得られるよう配慮している。

また、授業内容の復習を促すため、授業のおおよそ 2/3 の回について、Moodle 上での宿題回答を課している。

## 2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

全般的には学科平均よりも高い評価を得ているが、問 12 の「出席回数」、問 13 の「準備学習・復習時間」がやや低く、問 14 の「質問頻度」がかなり少ないとの評価であった。問 12 に関しては、1〜2 回程度毎にテーマが完結し、欠席してもその後の内容の理解をあまり妨げないという、講義内容の性質が、逆に欠席しやすさを生んでいるかもしれない。問 13 については、宿題の質・量が不十分であるということを示唆しており、次年度検討が必要であると考え。問 14 については授業中に質問を促すなどの工夫が必要かと思われる。なお、自由記述コメントとして板書の英語が読めないとの至適があった。崩さず書くよう気をつけたい。

## 3. 今後の授業改善について

現在利用されている機器分析法は、非常に多岐に渡り、半期の講義で、そのなかの何を取り上げるか、またどの程度まで掘り下げて紹介するか、あるいはどのような観点で分析法同士の関係性をまとめるかは、授業を行う上で、重要な検討課題であり適宜改善を行っていく。

# 画像科学実験Ⅰ・画像科学実験Ⅱ

(必)、1セメ、水2、受講登録数48名

各教員

## 1. 授業の組み立て方と取り組み方

この2科目は、画像科学科2年生を対象とした学生実験科目であり、画像科学実験Ⅰは前期後半の7週間、画像科学実験Ⅱは後期15週間、本学科の助教・准教授および技術職員が担当して実施している。前者では、化学実験の基本操作の習得を目的として、分析化学実験を行っており、全員が同時に同一テーマの実験を行っている。後者では、合成化学、物質による光の吸収と応用、および光学・電磁気学の3テーマに関する実験を行っている。こちらでは全体を3班に分け、各テーマにおいて1班15～16人の少人数に対して実施している。またいずれについても座学として安全教育を実施している。

## 2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

ほぼ全ての評価項目で、学科平均を大きく上回るスコアとなっている。これは実験科目の特徴として、各自が能動的に授業に関わらざるを得ないこと、またレポート提出が課されており、結果の取りまとめや考察、あるいはこれらのための勉強が必然的に求められているためと思われる。また、スコアからTAについても全体としては十分に機能していると判断される。

一方、画像科学実験Ⅱの問19(「講義進捗との連動」)および問20(「実験前の十分なガイダンス」)は学科平均よりやや低かった。前者に関しては、実験テーマの設定や実施時期を、講義とリンクさせる様、今後検討が必要であると思われる。後者に関しては、実験ディレクションに基づいた予習が前提であり、授業時間内のガイダンスは必要最小限となっているためと思われるが、講義の進行と実験テーマの設定時期に齟齬があることも一因と思われる。

自由記述のコメントとしては、実験器具類の準備不足の指摘、およびレポートの返却・フィードバックの要望があった。それぞれ、学期開始前の確認の徹底すること、各教員が出来る限り対応する様周知する。

## 3. 今後の授業改善について

短期的な改善としては、事前準備の徹底と、講義でまだ扱っていない部分に対するガイダンスの徹底を行う必要がある。また2012年度入学者からのカリキュラム変更に合わせて、実験内容および実施時期の修正を検討する。

## 高原 茂 Shigeru Takahara

情報画像工学実験 IV (必) 6セメ, 木3-5, 受講登録数 49名

情報画像工学実験 III (必) 5セメ, 水3-5, 受講登録数 46名

光機能材料 (選必), 5セメ, 月4, 受講登録数 49名

画像科学実験 I (必) 3セメ, 木3-5隔週, 受講登録数 46名

### 1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

例年にそって単独で担当している「光機能材料」について述べる。この科目では基本的にPCプロジェクターを用いた講義を行っているが、講義の進行がはやくなりがちであることから09年から要点は板書し、プロジェクターは主に図や写真、ムービーなどに使用するスタイルとしている。 Moodle を利用し、板書の確認、授業毎の小テスト、未来技術予測課題のオンラインレポート提出、成績発表(ニックネーム)に活用している。今年度は実際の応用に関して見せる実物を整理してみたが、おおむね昨年と同様な組み立てで授業を行った。

### 2. 学生による授業評価結果, ならびにそれに対するコメント

画像工学科での01年度受講生75名に対し、情報画像工学科移行後の02年度には13名になり、科目統合後の04年度より09年度はそれぞれ48名, 55名, 74名, 49名, 108名, 68名と年によって乱高下した。画像科学科になった10年度, 11年度は50, 49名とカリキュラムの安定に応じて受講者数は安定した。学科の変遷とともに化学系の本科目の授業アンケート評価はかなり悪化したこともあったが、新学科の学生になった昨年度はいくつかの項目を除いて平均をかなり上回った。ところが今年度はほぼ全て平均を下回る評価結果となった。

その主な要因を解析するとほぼ全ての項目で平均値が全般に0.1から0.4ポイントも上昇していることにある。また、本授業に関する項目別には、教員の声が4.4から3.4まで急落している。昨年と方法は同じなのだが、板書やスライドの見やすさのポイントが0.5ポイントも下がっている。謎は教室環境が0.6ポイント近く下がっていることである。平均を上回っているのは、出席と、準備・復習にかけた時間のポイントで Moodle の効果などによるものと考えられる。

一言でいえば、やや安心して他の先生方の授業の進化に対して遅れをとったといえる。ただし、理解できない変化もあり次年度も併せて解析したい。

### 3. 今後の授業改善について

基本的には新学科の学生が受講対象になり状況は好転していると思われる。しかし、講義内容・スキルには工夫の余地があり、よりわかりやすくする必要がある。すでに授業後 Moodle で提供しているテキスト原稿を見直し、書籍化を準備した。授業科目と学科カリキュラムの構成とのマッチングはよくなっているため、授業科目名を変更する来年度入学生にあわせて内容の専門性を絞っていく。オンラインレポートでは、WEBページからのコピーペーストする学生が極少数であるが後を絶たず、レポートをまとめて出してもらおうなど落ち着いてまとめてもらうことで対応したい。課題もあるが、 Moodle 利用が講義をかなりサポートしたと思われるので、活用のしかたをさらに磨き、従来からの課題である質問の項目の改善を行いたい。

## 立田 光廣 Mitsuhiko Tateda

物理学B力学入門 (必) 1セメ、金1、受講登録数57名

画像科学セミナー (必) 1セメ、水2、各回5名前後

レーザ工学 (選必) 6セメ、月2、受講登録数36名

### 1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

「レーザ工学」について述べる。

- (1) 板書内容をパワ・ポイント・ファイル・スタイルにあらためて7年目である。ただし、書き取る作業を通じて理解を深める効果を重視して、授業は従来通り板書により行っている。  
パワ・ポイント・ファイル形式に書き直すことにより、板書のレイアウトの確認や授業時間内の分量を予めおしはかるのに役立つ。
- (2) 今年も宿題を全部で5回出し、その都度、採点・答案返却ならびに解説を行った。教員の側の労力もかなりの覚悟がいるのと、受講する学生にとって過大な負担になっていないか、毎年気にかけているが、例年好評を得ているのを励みとしている。今年もアンケート結果では好意的な評価が得られた。
- (3) レーザ装置などの回覧をおこない、抽象的になりがちな講義内容を身近に感じさせようとしている。今後も適切な材料の収集に心がけたい。

### 2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

- (1) 宿題に対しては、「理解を助けるのに役立った」「添削してくれる点が良かった」と、今年も好評を得ている。
- (2) 「説明がうまかった」との評価を得た。今後も継続努力する。
- (3) 予習・復習に2時間以上かける人が、昨年は半数あったが、今年は2割程度にとどまった。興味の持たせ方に工夫が必要と感じた。
- (4) 質問をする人が年ごとに減少する傾向がある。多くの学生に興味をもたせて、質問をひきだしたい。

### 3. 今後の授業改善について

- (1) 昨年度同様、声を大きく、字を見やすくとの注文はまだあり、これらの基本的な要望にこたえるべく今後も努力したい。
- (2) パワ・ポイント・ファイルを投影する方式だと、少なくとも見やすさは格段に向上すると思うが、学生の理解がより深まるかという点については疑問を持っている。他の授業での試行結果ではネガティブな反応があり、改善策を探りたい。
- (3) 昨年は授業時間内にテーマの区切りをつけようとしたため、終了近くになると進度が速くなるとの指摘を受けた。今年は説明速度をなるべく変えないこととした結果、提供する話題を間引くこととなった。適切なバランスはむづかしい。



## 中村 一希 Kazuki Nakamura

化学基礎実験 (必)、1 セメ、火 3~5、受講登録数 80 名

画像科学実験 I (必)、3 セメ、木 3~5 隔週、受講登録数 46 名

画像作り実習 (必)、3 セメ、木 3~5 隔週、受講登録数 46 名

画像科学実験 III (必)、5 セメ、水 3~5、受講登録数 47 名

画像化学演習 (必)、2 セメ、火 3、受講登録数 60 名

### 1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

担当している学生実験、実習全般の取り組み方について述べる。実験、実習では化学薬品や実験器具など、扱い方を間違えると危険を伴う場合があるため、安全に実験を行うことに最も注意を払っている。実験前の講義において各実験の薬品、器具の取り扱いの方法を述べる際に、安全上の注意点を必ず説明し、保護メガネや白衣の着用も義務付けている。

実験作業中は学生が主体的に進めていくものであるため、より興味を持ってもらうために実験前の講義では小さな事でも学生に順番に問いかけ、その答えを聞きながら実験内容、原理などについて説明を行なっている。実験作業中は、教員、TA 共に実験室を巡回し、学生からの質問に答えたり、実験状況の確認を行ったりすることで、円滑にかつ安全に実験を進められるように注意している。

### 2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

授業評価アンケート結果では、概ね「実験中は教員、TA が質問に親切に答えてくれた」といった旨の回答が得られた。実験、実習という授業の性格上、学生と教員や TA に対して疑問に思ったことを質問しやすいのだろうと考えている。今後も引き続き実験中の学生の疑問や安全には留意していきたい。

また、「提出したレポートの添削を行なってほしい」、「実験終了の際の実験ノートや実験内容理解度のチェックに時間がかかりすぎる」といった意見も見られた。実験後、一人ひとり順番に理解度をチェックしているため、受講人数の多い実験ではどうしても理解度チェックやレポートの添削に時間がかかってしまう場合がある。この点は効率良く、かつ要点を押さえた方法に改善する余地があると考えられる。

### 3. 今後の授業改善について

上記、「提出レポートの添削、説明」に関しては、平成 24 年度より実施可能な実験科目から実施していくこととなった。「理解度チェックの効率化」に関しては、チェックにあたる教員や TA の人数を増やすことで質を落とすこと無く効率化を図っていきたい。また、実験を行なって終了ではなく、その後のレポート作成に際して学生各自が実験に関する理解を深めるために自主学習を行いやすいような環境を作りたい。具体的には参考になる書籍や文献を紹介したり、自主学習を行わないと解決できない課題を与えたりしていきたい。

## 宮川 信一 Nobukazu Miyagawa

画像有機化学 (必)、4セメ、水3、受講登録数 74 名

画像科学実験 I (必)、画像作り実習 (必)、

画像科学実験 II (必)、画像科学実験IV (必)

### 1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

必修科目の「画像有機化学」は、画像の名を冠しているが内容は基礎的な有機化学である。授業の構成としては、最初の 10 分程度は先週の復習を、スライドを用いて行い、その後当該週の講義を板書で行うスタイルである。また特徴的な内容としては、コミュニケーションカードを配布して毎回回収している点である。このコミュニケーションカードは、出席票も兼ねていて質問の有無に関わらず退席時に提出してもらっているが、授業中や授業後に質問に来られない学生でも気軽に質問出来る様なシステムになっている。質問の記載の有無は成績評価には反映させず、また質問以外の感想等の記述も可としている。受けた質問に関しては、冒頭の復習や本講義の中で質問者名を伏せて回答する様にしている。講義というと教員が一方向的に教えると (学生に) 認識されがちだが、学生からの質問や意見を反映することで双方向的な構成になるように努めている。また、今年度からは学生の意見を取り入れて Moodle を利用し、web 上で復習的な小テスト等も行った。

忘却曲線を考えると、学生には各自で常に復習をして貰わないと講義した内容が頭に残らないことになる。しかし、実際には困難である為、学生にはその日の夜に 15 分で良いからノートの見直しを推奨している。ここで一旦短期記憶から中期記憶に留め、最終的には翌週の授業冒頭で再度復習することで長期記憶に移行させようと言う目的のためである (実際問題としては、復習を推奨しても中々復習出来ないであろう学生にも授業という場で復習させるためである)。またこの復習は、授業が板書中心なので手書きの図表を間違えてノートに記載した場合、スライドで清書することで見易くなり各自のノートの間違い部分を修正出来ると言う利点と、先のコミュニケーションカードに記載されていた質問の回答や学生の誤った認識を手書きよりも見易いスライドを使って修正出来るという利点もある。

### 2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

相変わらず声の大きさ (4.90, 以下 5 段階評価, 満点が 5.00) と板書の見やすさ (4.82) は評価が高い。その他の設問に関しても比較的高い評価であるが、授業進度 (3.84) に関しては 0.22 ポイント、理解度 (3.02) は 0.35 ポイント、満足度 (3.53) は 0.22 ポイント学科平均より下回った。授業進度に関してはどうしても範囲が決まっているため変えようがないが、今年度の若干下がった理解度と満足度に関しては (例年は学科平均か平均の若干上) 改善の余地がある。本授業の前段階である基礎化学の知識があまりにも乏しいので、自習教材の強化で基礎力の底上げを行い、また一方では授業内容が基礎的な有機化学であるので、もう少し専門に生きてくると言う実感を例題等の強化で与えたいと考えている。

### 3. 今後の授業改善について

上述の通り自習教材の強化を中心に行いたい。実際に Moodle で (何度でも受験可能な) 小テストを行ったところ、高得点を取るために何回も受験する学生と 1 度直ぐに答え合わせをして (答えを記録して?) 2 度目で満点を取る学生と言う 2 つの傾向が見られ (ログで確認)、この結果は期末の結果と強い相関があった。その為、問題数の拡充・ランダム出題などを利用して (成績に関与しないテストでも) ゲーム感覚で自発的に進めていける様に工夫を凝らしたい。

# 和田 仁 Masashi Wada

広報媒体論 (選)、5セメ、金5、受講登録数 27 名

## 1. 私の授業の組み立て方と取り組み方

広報媒体論では、画像や図解を盛り込んだパワーポイントによる説明と、VTRやDVDによる動画(テレビCMや番組・映画など)による作品・事例紹介を行っている。歴史的なテレビCMや最新のCM、広告・広報の仕事を紹介するVTR事例などを視聴することで、今後の新しい映像・画像表現へのヒントや、メディア技術のビジネス化などへの関心を高めることを狙っている。授業内容に即した参考文献や関連Webサイトなどを毎回紹介することで、受講者がさらに自分自身で調べ、参照するよう薦めている。最新のCG技術やWebデザイン、消費者生成コンテンツなどに親しく接することも、情報画像リテラシーを高めるために必要であろう。

大学におけるノートテイキングの重要性は認識しているものの、本授業では説明内容が写真や印刷媒体からデジタルテクノロジーまで、さまざまな情報メディアに関わるため、使用パワーポイントの内容は毎回、配布資料(ハンドアウト)にしている。それは、細かな数字や、専門用語・固有名詞、アドレスなどを気にすることなく、スライドと説明内容に集中していただきたいからである。

## 2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

前期が私の当校最初の学期であったため、前期学科平均と比較してみると、問1(シラバスに関して)、問2(教材)、問5(板書・スライド等)、問11(進度)、問15(内容理解)、問16(満足度)など、ほとんど全ての項目で平均をクリアできた。しかし唯一、問12(出席)に関しては平均以下の評価を受けている。この原因は、受講生数が30人以下であったため出席を取ったり取らなかったりと、あまり一貫していなかったためであると推察している。工学系科目の中で当授業は、技術と社会、技術と消費者やビジネスとの関連を学ぶ特殊な科目のため、熱心に参加してくれた受講生に感謝したい。

## 3. 今後の授業改善について

前期は当校における初めての授業ということもあり、内容が盛りだくさんで一方的な説明が多く、質疑応答に十分な時間が取れなかったことを反省しており、今後改善したい。前期を通じて受講生が期待する内容や、その関心水準も理解できたと思うので、今後は取り上げる情報メディアやテクノロジー、コンテンツなどを絞って、さまざまな意見交換や議論の時間を増やして、出席意欲をさらに高めていきたい。

# 画像科学セミナー Introduction to Image Sciences

(必)、1セメ、水2、受講登録数51名

教授、准教授の全員

## 1. 授業の組み立て方と取り組み方

新入生への導入教育および学科教員と早く親しくなることを目的としたものであるため、次のような内容で行った。初回にガイダンスおよび安全教育を行い、前半の6週は、学生を4-5名の小グループに分け、各グループは教授、准教授3名の教員のところで各2週ずつの個別セミナーに参加した。これは主に学科の教育研究領域および教員の紹介を通して、学習する学問領域を認識することを目的とし、その内容は各教員に任せている。また、後半の6週は、高校での授業から大学での授業への橋渡しとして、高校レベルの物理および化学の内容を再度確認し、大学ではそれをどのように発展させ学んで行くのかを認識させる演習を実施した。

## 2. 学生による授業評価結果、ならびにそれに対するコメント

出席率4.7 (平均4.5)、および質問したか2.4 (平均2.2) でわずかに学科平均値を上回った以外、すべての評価項目において平均値を下回っている。特に低かったのは、教室の環境3.6 (平均4.5)、教員の声3.6 (平均4.4)、教材3.9 (平均4.3) であった。中でも満足度3.6 (平均3.9) は軽視できない。良かった点として、学科の理解が深まった、教授と話せてよかった、研究室の様子が観られた、班のメンバーと仲良くなれた、楽しかった、といったコメントがあった一方、改善すべき点として、研究室めぐりを増やして欲しい、大変だった、後半の演習は面倒なだけ、といったコメントがあった。

## 3. 今後の授業改善について

導入教育の評価が平均より大きく低いということは問題である。改善点のコメントには多くは述べられていないが、その声なき声に耳を傾け、独りよがりにならないよう教員ひとりひとりが改善策を講ずるべきであろう。